

平成19年6月24日



地球の裏からこんにちは

リマ日本人学校 教頭 山本義人



6月22日、日本は夏至ですが、こちらは冬至でした。暑いイメージの南米ですが、ここペルーのリマ市では南極からの寒流の影響で、霧に覆われる寒い日が続いています。

☆ペルーの気候（天気の様子）

ペルーの気候は大きく三つに分けることができ、それぞれの気候によって様子が大きく変わります。

コスタ

「海岸砂漠地帯」とも呼ばれ、太平洋側からペルーの内陸部に向かって、高さが約500mまでの地域をいいます。この地域では、一部を除いてほとんど雨が降らず、リマ日本人学校のある首都・リマ市内もこの地域に入り、お店では傘が売られていません。

ペルーはインカ文明などの古代遺跡で有名な国ですが、この気候のおかげで、何千年も昔に造られた遺跡が、現在でもほとんどその形を変えないままに残されています。



シエラ

「山岳地帯」とも呼ばれ、高さが500mよりも高い地域を言い、アンデス山脈もこの中に入っています。ペルーで一番高い山がワスカラン(6768m)ですが、日本で一番高い山の富士山(3776m)の約2倍近くもの高さがあります。

シエラでは、地域の高さが増すほど寒くなりますが、2500m～3500mの高さで暖かな所を「ケチュア」といい、日本でも有名なマチュ・ピチュなど、農作物がつくりやすい場所になっているところもあります。



セルバ

アマゾン川とその周りの地域で、高い温度と湿度に特徴があります。ペルーというとアンデス山脈を思い浮かべますが、意外にもこの国全体の約60%がセルバに当たり、ジャングルには危険な野生動物や昆虫などが無数にいるため、人が近付くことが困難な場所でもあります。

古代インカ帝国もなかなかこの地域に近付くことができず、スペインの征服により他の地域と統合されました。

世界の気候が一国に集まると言われるペルーのようすをまとめてみました。



※ リマ日本人学校ホームページ < <http://www.acjlima.edu.pe/> >